

研究成果報告書

所属 中国・吉林大学

役職 教員

氏名 潘 寧

研究結果

『日本霊異記』に反映された日本古代の冥界観の変貌：

外来伝承の影響という視点から

奈良末期から平安初期にかけて薬師寺の沙門景戒によって編纂された仏教説話集『日本霊異記』（以下、『霊異記』と略記する）には冥界、いわゆる人間が死後赴く世界をテーマとした説話が数多く見られる。これらの冥界説話は中国六朝時代以来、志怪小説の流行に迎合し、漢籍をはじめとする大陸文化との交流の実態を物語っている。本研究では近年の『霊異記』研究の動向に従って、広範な漢籍を考察の視野に入れつつ、外来伝承の影響という視点から、本作品の特色を捉えることを試みた。

本研究では外来伝承の影響を文学作品と漢訳仏典の二つに分けて考察してみた。

まず、先行研究でモチーフごとに分類された話のうち、四種類の話抜き出し『霊異記』と漢籍の類話を比較してみた。罪で冥界に落とされた一般的な冥界説話の内容と異なり、比較の対象となるこの四種類は誤って落とされたり、優秀のため冥界の役員についてほしいといった理由で召喚されたりするというのが特徴的である。比較してみた結果、話の骨子となるモチーフ（先行研究では「話型」が使用されている）がほぼ一致しているのに対し、話の舞台や話に反映された文化が全て日本本土化されていることが判明した。（掲載論文 2020）

文学作品のほか、従来の研究で見落とされた漢訳仏典の影響も考察してみた。『霊異記』に描かれた冥界の様子、裁判の場面などは文学作品というより、むしろ漢訳仏典に由来するものが多いといったほうが適切だろう。特に、地獄の恐ろしさを宣伝する地獄仏典が『霊異記』の取材源になったと推測される。また、『霊異記』の仏典受容は経文を直接的に引用する形と、経文を解釈する、即ち間接的に引用する二形式を採っている。後者の場合は冥界説話の趣旨または経典の性格を分かりやすく人々に説明することに重みを置いたと考えられる。（口頭発表 2021）

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

中国語: 汉译佛典对于日本古代冥界观变化的影响研究

日本語: 漢訳仏典が日本古代の冥界観の変貌に与える影響、潘寧、第十七回中国外国文学学会日本文学研究会年次大会・国際シンポジウム、2021.9、中国・武漢

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

中国語: 《日本灵异记》话型的中日比较研究

日本語: 『日本靈異記』の話型の中日比較研究、潘寧、日本語教育と日本学、2020.11

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)